

製品名: Nopp140 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14800**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	74,130kDa(Nucleolar phosphoprotein p130)

抗原情報

遺伝子名	NOLC1
別名	NOLC1; KIAA0035; NS5ATP13; Nucleolar and coiled-body phosphoprotein 1; 140 kDa nucleolar phosphoprotein; Nopp140; Hepatitis C virus NS5A-transactivated protein 13; HCV NS5A-transactivated protein 13; Nucleolar 130 kDa protein; Nucleolar pho
遺伝子 ID	9221.0
SwissProt ID	Q14978
免疫原	Nopp140 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 620-700

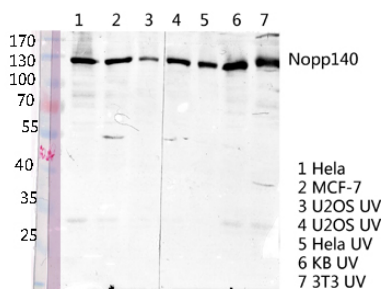
背景

機能: 核小体形成に関連し、核小体における線維状中心および高密度線維状成分の基本構造の維持に関与している可能性がある。GTPase および ATPase 活性を内在する。RNA ポリメラーゼ I による転写において重要な役割を果たす可能性がある。、PTM: CK2 および PKC 部位において、迅速かつ大規模なリン酸化/脱リン酸化サイクルを経る。CDC2 キナーゼが M 期に p130 をリン酸化することを示唆する証拠がある。、類似性: 1 つの LisH ドメインを含む。、細胞内局在: 核小体と細胞質の間を往復する。終期には顆粒状の前核小体を形成し始め、その後 G1 期初期に核小体へと再配置される。、サブユニット: RNA ポリメラーゼ I 194 kDa サブユニット (RPA194) およびカゼインキナーゼ II と相互作用する。、機能: 核小体形成に関連し、核小体における線維状中心および高密度線維状成分の基本構造の維持に関与している可能性がある。GTPase 活性および ATPase 活性を内在する。RNA ポリメラーゼ I によって触媒される転写において重要な役割を果たす可能性がある。、PTM: CK2 および PKC 部位で迅速かつ大規模なリン酸化/脱リン酸化サイクルを経る。CDC2 キナーゼが M 期に p130 をリン酸化することを示唆する証拠がある。、類似性: 1 つの LisH ドメインを含む。、細胞内局在: 核小体と細胞質の間を往復する。終期には顆粒状の前核小体を形成し始め、その後 G1 期初期に核小体へと移動する。、サブユニット: RNA ポリメラーゼ I 194 kDa サブユニット (RPA194) およびカゼインキナーゼ II と相互作用する。、

研究分野

DNA / RNA; RNA プロセッシング; エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; その他の因子

画像データ



Nopp140 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈し、ウェスタンブロット法で様々な溶解物を分析し、二次抗体は 1: 20000 に希釈した。